

小杉山 円満寺 令和四年正月号

寺だより

新庄市五日町五九一四

TEL 二一〇四三三三 Fax 二一〇一六六

発行日 令和三年十二月吉日 発行人 山尾瑛紀

もう師走。この一年を振り返ってみますと、やはり、コロナ禍での不安な日々が続く一年でした。



「祈り」は苦しい時ほどその効果はあるともいわれています。

祈りの習慣を持つことよって、日々の暮らしは、さらに輝きを増します。

新たな一年を迎えます。皆さまの祈りの力によつて、安らかな生活が一日も早く訪れますように。

新年への祈り 加持祈祷

当円満寺がそうであるように、真言宗ではお正月や縁日、何かの行事において、



願いが成就するように護摩法要などのご祈禱をお勤めしています。それらを「加持祈祷」と呼びます。

仏さまの力は時間や場所に制限されるところなく私たちに降り注いでいます。この仏さまのお力を「加持力」といいます。

弘法大師が「あたかも太陽の光のような仏の力が人々の心の水に現れるのを、加といい、私たちの心の水が、よく仏の日を感じ取ることを持と名づける」とその著作の中で仰っています。

仏さまの力が私たちに加わり、また私たちがそれを信心によつて受け取ることで「加持」が成立します。

令和四年、新しい年が、無病息災で幸多き年でありますよう、歡喜天堂での大護摩供修行に参加されますようご案内いたします。



今日の法語

「三密」さんみつ

新型コロナウイルス感染症拡大防止の標語でお馴染みの「3密」という言葉があります。

一方、真言宗では「三密」というと、仏さまと一体となるための三つの作法の名前として昔から使われています。

まずは合掌。右手は仏さま、左手は自分です。これにより仏さまと身体が一体となります。(身密)

次に真言。これは「真の言葉」で仏さまに話しかけます。ここでは仏さまと言葉が一体になります。(口密)

そして心穏やかに仏さまを想うこと。これで仏さまと心が一体となります。(意密)

祈る形(身密)・祈る言葉(口密)・祈る心(意密)の三つ、仏さまの三密と自らの三つの作法を一体にすることが、真言宗では最も大切とされます。

歡喜天にお参りの際は、二度手をたたき、手を合わせ(身密)、「南無大聖歡喜天・なむだいしよう かんきてん」と唱え(口密)、心穏やかに歡喜天様を想って(意密)、お祈りしてください。

令和4年 厄年表(数え年)

	前厄	本厄	後厄
女性	平成17年生 18歳	平成16年生 19歳	平成15年生 20歳
	平成3年生 32歳	平成2年生 33歳	昭和63年・平成元年 34歳
	昭和38年生 60歳	昭和37年生 61歳	昭和36年生 62歳
男性	平成11年生 24歳	平成10年生 25歳	平成9年生 26歳
	昭和57年生 41歳	昭和58年生 42歳	昭和55年生 43歳
	昭和38年生 60歳	昭和37年生 61歳	昭和36年生 62歳
幼児	令和2年生 3歳	平成31年・令和元年 4歳	平成30年生 5歳

令院と円満寺

—この記事は寺だより十一月大黒天祭号に掲載したものです。—



今年、新庄祭りの山車の一つが桃令院を取り上げました。そして、山形テレビから本寺が取材を受けました。

桃令院は、新庄藩最後の、十一代藩主戸澤正実（まさざね）の母です。島津藩から嫁いでこられました。

幕末の戊辰戦争時、お城が焼き払われました。そのとき、円満寺に仮住まいされました。

その部屋が、円満寺の庫裏の奥にある書院造りの部屋です。

「戸澤上野介母休処」と書かれた看板があります。きつと、玄関に掛けられたものと思われるます。

奥の部屋の釘隠しが桃の形になっています。

仮住まいなさるというので、部屋を改装したときに、釘隠しを



桃の形にしたのかもかもしれません。ちなみに、手前の部屋の釘隠しは、四つ菱です。

昔の本堂に、丸に十の字の島津家の家紋が入ったおひつなどの調度品を展示していましたが、昭和四十三年の火災で失くしてしまいました。亡くなった祖母がとても残念がっていました。

第二次大戦中は、桃令院の孫に当たる方が、円満寺に疎開なされていました。年が近いというので、祖母がお世話係を勤めたそうです。お二人は亡くなるまで、書面のやり取りなど、交流がありました。



シリーズ 密教の教え

何回かに分けて、真言宗の教えの特色を、弘法大師が示した言葉をもとに紹介していきます。

その三 「三密加持」

仏教では、人格的活動を身語意、つまり

所作と言語と精神との三つに分け、それを三業と呼びます。

特に、所作も言葉も心もそれぞれ統一されている仏の三業のことを三密と言います。そして、この世界のあらゆる物事は、密教の教主大日如来の三密のはたらき（加持）に他ならないとされます。

そのため、不統一と感じてしまう自分自身の三業も、必ず大日如来の活動の内にあると信じることが、密教修行の出発点であると同時に終着点となります。

境内スポット

イチヨウの葉の絨毯

境内入り口にあるケヤキの葉の次には、イチヨウの葉が散ります。この日は東からの風で、半日で境内一面に、黄色の絨毯を敷いたようになりました。（ちよつと分かりにくいですね。）今年是一段と色鮮やかなイチヨウの落ち葉でした。—令和三年十一月九日 撮影—

